

1 学期終業式での校長あいさつ

皆さん、6月からここまで、よく体調を管理してコロナに感染せずに過ごしてくれました。これは、皆さんの努力もさることながら、皆さんのお家の方々のご努力でもあります。皆さんのお家の方々は、皆さんをコロナに感染させないように、まず自分が罹らないように、また、皆さんに感染させないようにと、心を配り、これまで、ずっと努力を続けていられているものと思います。ぜひ、お家の方々に、皆さんから、感謝の気持ちを「言葉にして」伝えてほしいと思います。また、「校長先生もすごく感謝してるんだって」と、ぜひ伝えていただきたいと思います。

さて、マスコミの報道でもありましたが、仙台市の中学生にコロナ感染がありました。その学校は今回の新人戦には出られません。

この現状をとらえ、皆さんはどう思うでしょう？まず、何を考えるべきか。ここが一番大切です。

さて、何を考えるべきでしょうか？

校長先生が、ここで皆さんに一番先に考えてほしいことは、「感染してしまったその中学生の気持ちです」その生徒は、今どんな気持ちでいるのでしょうか？おそらく、「自分のせいで、学校の友達まで大会に出られなくなってしまった。」と心が折れそうになっているのではないかと思います。

皆さんには、そのような立場になった人の気持ちを一番に考えてあげられるような人間になってほしいのです。

感染については、その生徒が悪いのではないのです。しかし、人間、自分が感染したとなれば、責任感が強ければ強いほど、みんなに対しての罪悪感を感じてしまうものです。そのような意味においても、その生徒はコロナの被害者なのです。そこをいかに理解してあげられるかが、大切なのだと思います。

「あいつのせいで…」とってしまうような人間にはならないでください。

「相手の気持ちを自分のこととして置き換えられる力」これが「思いやり」「優しさ」「温かさ」の原点となる力、資質・能力です。

校長先生は、よく未来の話をしますね。「AIが飛躍的に進化して予測不能な時代が来るよ。」って言っています。そのために、「その時に生きて働く力を授業を通して学ぶのだ。」とも言っています。

では、その時代に「生きて働く力」として一番大切な力は何でしょう？

それは、AIには分からない、人間にしかできない「相手の気持ちを自分のこととして置き換えられる力」、「思いやり」、「優しさ」、「温かさ」なのだ校長先生は思うのです。

だからこそ、毎回言っている「温かいあいさつ」を大切にしたいのです。皆さんのあいさつ、すごく良くなりましたね。最近では、温かさだけでなく、元気さも入ったあいさつを皆さんからいただき、嬉しく思います。今後は、そのあいさつを、校長先生だけでなく、誰に対してもできるような生徒になってほしいと思っています。よろしく願います。

結びになりますが、1・2年生の皆さん、運動部の皆さんは明日から新人大会です。コロナ感染に注意しながらも、いざ試合となったらコロナなど気にせず全力で戦って来てください。メリハリが大切です。文化部の皆さん、3年生の皆さんは、自分なりに充実した時間が持てるように努力してください。

それでは、15日（木）にまた学校で、元気に会いましょう。

以上で、校長からの話とします。